新たな体制で30年産米に取り組む

稲作部会

稲作部会（堀内直富久部会長）は４月11日に総会を開催し、部会員やＪＡなど約30人の参加のもと、29年度事業報告や30年度事業計画、役員改選などについて協議を行いました。

事業計画では、健苗コンクールや視察研修、食味官能コンクールの実施などを盛り込み、管内水稲栽培の技術向上を図り、高品質・良食味米の生産を目指すことを誓い合いました。また、役員改選では部会長に鎌田文尋さん（上母体）、副部会長には堀内直富久さん（駒形）、加藤正徳さん（熊の岱）がそれぞれ選任されました。

部会長、副部会長を除く役員の方々は以下のとおりです。

監事＝工藤武一郎、茂呂　　誠、飯坂　幹雄

会計＝大塚　忠之、七尾　辰美、安保　広政

▲30年度の活動を慎重に協議しました

▲部会員も増え産地拡大が期待されます

前年を上回る実績をあげる

菌茸部会

菌茸部会（加藤博正部会長）は４月９日に総会を開催し、部会員や町、ＪＡなど約15人が参加し、30年度事業計画など３議案を承認しました。

29年度実績は、数量こそ計画を下回りましたが、販売金額で1,929千円（計画対比106.5%）、販売単価988円（計画対比117.0%）と高品質な菌茸の出荷により、市場でも高単価で取引され計画を大きく上回りました。加藤部会長は「大きな部会ではないが、昨年はテレビで藤里町の舞茸が放送され、知名度も上がったと思う。今年も高品質な菌茸の安定生産をし、計画達成に向けて力を合わせて取り組んでいこう」と呼び掛けました。

地域農業の発展に寄与する

青年部

青年部（伊藤達也部長）は４月６日に第20回通常総会を開催し、29年度事業報告や30年度事業計画について協議し、それぞれ承認されました。

伊藤部長はあいさつで「先行きが不透明な時代と言われているが、言葉に惑わされることなく、青年部員の力を結集して頑張っていこう」と述べました。30年度計画では、「白神夢大地運動」として青年部員の加入促進による仲間づくりや、次世代へ農業をつなぐために小学生を対象とした田植え、稲刈りなどの体験活動、地域イベントへの参加などを通して、組織の強化・活性化、地域農業の発展に向けて活動することを決めました。

▲青年部員の役割について語る伊藤部長

▲単価は過去最高の665円／kgを記録しました

産地の維持・拡大に努める

山うど部会

山うど部会（桜田和浩部会長）による販売実績検討が４月13日に開かれ、部会員やＪＡ、市場など約30人の参加のもと、市場情勢報告や販売実績などについて報告されました。

桜田部会長は「生産者の減少が懸念されるが、伝統のあるこの部会を維持するために、山うどの魅力を伝え、新規栽培者獲得のために声を掛け合っていこう」とあいさつ。その後の情勢報告では、横浜丸中青果㈱の担当者が「春商材として山うどは欠かせない存在。これからは若い世代の需要拡大を図り、１円でも高く販売するよう努力していく」と力強く話し、部会員らは需要期の出荷の確保に向けて意思統一を図りました。

蟹座（6・22～7・22）　サービス精神を発揮すれば、自然と人気運がアップする予感。縁の下の力持ち的な役割でも快く引き受けてみて